

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

おはようございます。議長より登壇の許可をいただきました山口でございます。朝一番というのはなかなか難しくて、私でさえどうもあごの回転が悪うございまして、なかなかうまいこといかんかなと思いつつ、きょう3点ほど市長の政治姿勢についてということでお尋ねをしたいと思います。

お尋ねをする前に、けさ、朝起きて、さあ、今から頑張ろうと言うてズボンを履いた。何かズボンのポケットでございまして、こうしてズボンのポケットに手を入れて、ひょっと見たら金が入っておった。（「もうけたね」と呼ぶ者あり）

はい、もうけたなと思いながら、今度はやっぱり武士は身を清めて戦場には立っていかなと思いつつ温泉に入りました。そして、温泉に入る途端に一番会ったらいけない人と会いまして、物を言わずにここに来たわけですけれども、では早速ですけれども、一般質問を始めたいと思います。

例えばですね……

〔市長「おれのこと」〕

例えば、市長がどこかに行った、何かの会合に行ったと。そのときに、私は個人的に、個人としてはこう思いますよと、例えば、市長が言ったとする。そしたら、皆さん方どうとられると思いますか。これはまさに、市長、私は個人ですよと言いながらも、やっぱり立場的にはもう市長が言ったとしか絶対ならないわけですね。その点について、まず市長が言ったか言わないかというよりも、市長としての考え方をお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私のことをお尋ねになりましたので、私は今まで、これは松尾初秋議員さんにもお答えをしておりますけれども、個人としてという発言はしたことがありません。あくまでも、何人たりとも私を見るときというのは武雄市長の樋渡啓祐ですということで見ておられますので、私に関してはそういった意味でのオフレコ発言もありませんし、公私一体で気をつけて言っております。ですので、先ほど議員がおっしゃったように、その個人として何とかというのは基本的には外では言っていないし、宮本栄八さんがきのうおっしゃっていましたが、ぼろっと何とかと言うのを言及するのはいかがなものかと思っておりますけれども、期待しておりませんので、この辺で答弁を終わらせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

そしたら、教育長にちょっとお尋ねをしたいと思っておりますけれども、教育長としての立場、

あるいは個人で言ったというような、さっきの市長の質問と同じですけれども、教育長はどのようにお考えなのか、お尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

年々無口になっていく自分を感じているときもあるんですけれども、やはり誤解されて非常にきつい目に遭うときもあるわけでありまして、自分の発言が周りから個人的な発言とは見てもらえないという場合もあるわけでありまして、そこは十分注意をしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

市長、教育長にお尋ねをしたのは、これは体育協会のことなんですけれども、体育協会の人事の中で、ある方が議長に面会に来られるということで、私も議会事務局にいたんですけれども、相手が余りにもお偉い方のために私は席を外しまして、そしたらその人が議長面会の終わるまで私は3階におりましようということで3階におったわけです。そして、もうそろそろ済んだかなと思って4階に行ったら、議長からちょっとと言われて、何だったのかなと、議長になったから表敬訪問かなと思ったわけですね。ああ、やっぱり大したものだなと、やっぱり武雄を担っていく偉い方だから表敬訪問もということで来られたのかなと思っておったら、何ということはない、議長に、あなたは議長になったから仕事の忙しゅうなったけんが体育協会の副会長をやめなさいと来たわけです。

〔市長「おかしかりょうもん」〕

ですね。そうでしょう、議長。

〔市長「いや、こっちに」〕

そういうふうなことを、自分の地位を利用して、まだその人は会長なんですよ。

〔市長「だれね」〕

いや、その名前はともかくとして、そういうふうなやり方が果たして妥当なのかどうか、たくさんの補助金を出している市長としてどのようにお考えなのか、その点をちょっとお尋ねしたいなと思っておりますけれども。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと詳細がこれだとよくわかりませんので、ちょっとこの時点では答えかねます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにしても、やっぱりあくまでも個人ですよと言いながらも、我々を含めて、ここに議長を含め26名の議員がおりますけれども、おれ個人で言うたばいと言っても、例えば、1番の朝長議員なら朝長議員がこが言われたもの。そいぎにゃ、朝長議員が言うたないばそれはそうでしょうと。もう個人ではなかなか通用しない部分があるんですね。だから、やっぱり皆さん方とお話をするときにも、それなりに考えてやらなければいけないのかなと。

例えば、きのう、6番議員の松尾陽輔議員が消防の格納の部分について執行部にお尋ねをされました。そいぎ執行部は、それはもう行政のほうで金を出してしましよう。それは私に言わせれば、松尾議員さんの言いんさぎにやすっとかんとしか聞こえんわけ。東川登の場合は190万円の金をかけて、そして消防団員総出で基礎をして、そして消火栓の横の格納庫はまちづくり交付金でつくったんです。片方は190万円かけてまちづくり交付金でつくって、片方は、そしたらそれは、まちづくり交付金はほかんとに使うてよかけんがと。190万円の分、幾らになるかわかりませんが、それは若木はまちづくり交付金のほかの金で仕事をしましよう。それは余りにもあり得んでしょうから再度答弁を求めたいと思えますけど、それこそまさに地位利用じゃなかかなと思ってから聞きよるとですけど、いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長の顔が青くなっていますので、私のほうからお答えしますと、ちょっと誤解なきように申し上げますと、部長の答弁といえども、それは私の答弁と同じですので、部長に責任はありません。すべての責任をしょうのは私であります。そういった意味で私から答弁いたしますけれども、確かにそれはそうだなと思いましたが、それはそうだなと思いましたが、これはちょっと基準をもう一回見直させてもらってもいいですかね。やっぱり、例えば、東川登でせんで若木でしますというぎ、それはやっぱりおかしかですもんね。ですので、これこそが議会なんですよ。ですので、私は陽輔議員さんの御提案というのは物すごく重く受けとめています、それはやっぱり議員の御発言ですので。ただ、一方で社会的公平とか地域での公正というのはありますので、これもまた重く受けとめて、あんまり重く受けとめ過ぎて何が何だかわからなくなるときもありますけれども、それはしっかり基準をもう一回見直していきたいと思えます。

それと、先ほどありましたけれども、地位利用というか、個人的な話に戻りますけれども、やはり私もそういうふうな受けとめられがちなんですね。ですので、それは、体協の話は私

は詳細にはわかりませんが、そう思われぬように他山の石としたいというふうに思っております。何事も勉強だと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

ありがとうございます。ということだそうで、やっぱり行政とは公平に周りの町も含めて発展するような考え方を持っていたらいいということ、もう1つですね、もう1つも2つもあるんですけども、これは苦言、地位利用とまではいかないかも知れません。執行部の皆さん方全員、執行部の議会に対する報告のあり方。というのは何か。今、武雄市は、市長を中心に全国に名声というか、悪声というか、を発しておられます。そういう中で、執行部の皆さん方の市長についていく姿勢というのは大変かと思えます。しかしながら、報告、連絡、相談、「ハウレンソウ」というのがありますよね。そういう中で、議会に対する報告、これは全くできていない。

〔市長「そうね」〕

できていないです。これは、答弁ば求むつぎにや、もう詰まんさるけんが答弁は求めませんけれども、そういう中で、やっぱりもし何かあったら、要するに、例えば、黒牟田の飛龍窯祭り、あれだって議会には何も連絡来とらんですよ。連絡来ましたか、来ていないですね。そういうふうなんです。例えば、杉田かおるさんがあそこに来た。杉田かおるさんが来たけれども、それだってある議員さんが前の日にそれはおかしかろうもんと。私には前、もしそういうふうなことがあればぜひ出席をしてくださいね、案内を出しますからと申しておって出ておらんと。あるいは、これは観光協会の話でしょうけれども、今の旅館組合の組合長さんから、私、何てん思うとらんやったですけど、組合長さんに、近ごろ組合長さんも偉うなったのうと、2遍会うたときに2遍私が言うたわけですね。そいぎ、うちに来たわけですよ、旅館組合の組合長さん。そいぎ、何て言うてこらしたかというぎ、「山口さん、おい何じゃいしたかにや」という話なんです。「いや、何もしとらんばい」と。「いや、そがん山口さん、ごっつい言うけんが」と。昔から私は相手を知っていたものですから、ただ単に私よりか肥えてもおるし背も太かったけんが、そいけん偉うなったのうと言うた気持ちやっただですけども、その人が何て言わしたか。例えば、飛龍窯祭りをやる上で、旅館組合のほうにも何も連絡あつておらんすもんね。

〔市長「しとるよ」〕

と旅館組合の組合長さんが言う。

〔市長「しとろうが」〕

と言って、今、市長、腹かいておりますけれども、私に言われたのはそうなんです。もう言葉というのは両方聞かんばわからんすもんね。両方聞かんばわからんけんが、今、市長

は、「いや、それは連絡しとるよ」ということで言われますけれども、旅館組合の組合長さんはそういうふうな言い方をされました。だから、私が言いたいのは、やっぱり連絡をするのはですね、連絡をして、なしおれに連絡ばしたかいと言う者は一人もおりません。だから、連絡というのはやっぱり間違いないように、これでどがんやろうかと思ったとでもやっぱり連絡をするべきじゃないかという思いがあったものですから、これをちょっと皆さん、苦言ということで言わせていただいております。

それと、図書館運営についてということで入らばいかんとですけども、その前に男女共同参画、これは通告をしておりますので、ちょっとお尋ねをしたいと思えますけど、男女共同参画とは何ぞやということでまずお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

おはようございます。男女参画社会とは、男女が互いの人権を尊重しつつ、責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会ということでもあります。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

わかったごと、わからんごと、何か非常に、要はわからんごた言い方をしたのが男女共同参画ということですね。いや、それはなぜかというぎ、女性ネットワークの総会の後ですかね、山崎和子さんという方の講演は。やったでしょう。その山崎和子さんという方の講演、この山崎和子さんてちょっとなかなか忘れんわけですね、もううちの怖い人が旧姓山崎なものですから、ちょっと話を聞きよって、どきどきしながら聞きよったとですけども、山崎和子さんの講演を。その中で、もう男女共同参画の、あそこの課であるですね、男女参画課かな。あれはもうそろそろおしまいじゃなからうかと。男女共同参画というのを口で言う、そういう時代はもうそろそろ終わりじゃないですかという話なんですけれども、部長さん、その辺はどうですかね。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

理想論からいえば、確かにもうそういう男性と女性が、先ほど申しましたような互いの人権を尊重しつつ、お互いのもので、しかも責任を分かち合って能力を十分に発揮しているという社会になってしまっていると、そこまで行っているということであれば議員さんのおっしゃるとおりだというふうに思いますが、現時点では、例えば、各組織の意思決定機関への

女性の参加の割合とか、こういう部分についてはまだ若干不足しているのではなかろうかというふうに認識をしております、男女共同参画についてももうしばらくの間は必要ではないかというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

というのは、私に言わせれば女性の方の意識の問題かなと、それは何となく思うんですね。自分の周りのことを言うのはおかしいんですけども、きょうもちょっとお見えですけども、夫婦で傍聴に来ておられます。まだ物も言うておらんし、ちらっと見たけんが夫婦やろうと思ってから思ひよとですけども、もうあそこなんかまさに男女共同参画を絵にかいたような方ですよ。もう母ちゃんから一言言われるつぎにや、父ちゃんはいじゅってなつてから、もうそんなものですよ。そして、お互いに助け合いながら、もうまさに平等なんです。（発言する者あり）

いえいえ、だから、私が言いたいのは、その山崎和子さんも言われた。もう机上での論議は終わりにして、実践をしましょうと言われた。そいぎ、私はもう男女参画課の方にいつも言うんです。男女共同参画で、これは口で言うもんじゃなかばい、実践するもんばいて。うちに来てんさい。うちはごつとい実践している。うちもあそこに負けず劣らず、もうあそこのだんなさんなんか卵焼きでん焼かせてんですか、それは物すごくおいしくて上手なんですよ。もうそのくらいにお互いに協力し合うてしよる中で、今度はそれを外に向けてやりましょうと。外に向けてやりましょうということは、これは一つの原因として、女性というのは子育てのあるですね。そいぎ、子育てをしながら外に出るといのがなかなか難しいから、いろんな地域の行事とかなんとかに入れないという部分があると私は認識しております。だから、男子と女子の地域に携わる割合が恐らく女性のほうが少ないのかなと。だから、そういうふうな考え、とらえ方をされるんじゃないかなと。ところが、学校に行ってPTAとか育友会とかそういう中での男女の入り方といえば、女性7割、男性3割、逆にそんなものじゃないかと思うわけですね。女性がそういう中に入ったときに、女性が物を言い切らんとか、女性が出る場所がないとか、全くそれはないと思う。だから、もうそろそろ実践、男女参画課というのがずっとある程度考えを改めて実践に移したらという中で、この間、女性ネットワークの総会のときの山崎さんの講演なんですね。

何となく地位利用についてから外れたように思われますけれども、女性の地位の向上というよりも、女性をもっともっと表に出る機会という、私は、もう失礼な言い方かも知れませんが、4番議員の山口裕子議員さん、（「11番」と呼ぶ者あり）11番議員の上野議員さん。11番議員の上野議員さんは、もう子育てを済まれて、それから議会のほうに入られましたよね。しかし、山口裕子議員さんは子育てをしながら議会のほうに来ておられます。

見よって、これはほんなごて男の倍も3倍も大変やろうなど。それは何かというぎ、子育てばいっちょせんばらんですよ。子育てせんばらん、父ちゃんの面倒見らんばらん、家事もせんばらん、そして議会もこなさんばらん、これは男女共同参画に入るとよりも大変だと思うわけですね。それをこなしていっておられる議員さんというのは、もう私に言わせれば尊敬に値するのかなと。しかし、このくらいにやっぱりしっかりしておかんぎ議員さんになられんとかないという部分もありますね、やっぱり女性の方が本当に議員さんとして活躍をして今後もやっていこうかなというときには。そういう中で、褒めたり何かということであれですけれども、いずれにしても、やっぱり我々言動には注意をしていかなければいけないのかなという感じがしましたので、これを取り上げさせていただきました。

今後の図書館運営についてということで、2番目に図書館運営についてを出しておりますけれども、私の図書館運営はといいますと、今回の質問の中で皆さん方、15人中13人やったですかね、図書館運営ということでございますので、私ごときが図書館運営についていろいろ言うこともないかと思っておりますので、これは皆様方の立派な御意見にお任せをして、3番目のまちづくりに行きたいと思っております。(笑い声)

ちょっとしっかり笑われよとですけれども、そいぎ、笑われたついでに今後の図書館運営について一つだけ教育長にお尋ねします。

それは何か。教育長にですね、コーヒーを飲みながら、あるいはお茶を飲みながら本を読むのはおかしいですか、その点についてちょっとお尋ねをします。

○議長(杉原豊喜君)

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

今お尋ねの件ですけれども、図書館についての基本的な考え方というのが、例えば、学校の図書館とか今回想定している図書館というのは変わってきているというのは事実だろうと、きのうの市長の答弁のとおりでございます。ですから、今そういう形の図書館がふえてきているということは事実でありますし、もちろん子どもたちへの指導はまた指導として片方にしていくということかと思っております。

○議長(杉原豊喜君)

19番山口昌宏議員

○19番(山口昌宏君)〔登壇〕

あとのことは、そしたら皆さん方によろしく願いしておきます。

そしたら、3番目のまちづくりに入りたいと思っております。

まちづくりの1番目、今、武雄市に市営住宅が、もらった資料の中に877戸、市営住宅がありますよ。そいぎ、市営住宅を管理する今の管理体制はどのようになっているのかをまずお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

現在、武雄市では、先ほど議員御指摘のとおり、877戸の住宅、18団地ございます。やり方といたしましては、管理のやり方、方法でございますが、山内、北方にある分はそれぞれ支所で行ってもらっておりますし、武雄町の分については建設課の中の住宅係で行っております。住宅係の人数としては、4名体制で行っております。で、支所につきましては、複数仕事を抱えていますので、3名の中でそれぞれ行われているということになります。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

この質問の趣旨は、今の市営住宅の建物というのは、長屋的な建物というよりも、もう3階、4階、5階建ての市営住宅がずっとふえております。そして、そのシステムとしても新しいシステムができていまして、その管理上、行政の皆さん方、4名と3名、7名、トータル877戸を7名で管理をされているようでございますけれども、これはもうそろそろ指定管理者制度を導入してやるべきじゃないのかなという感じがするわけですね。そういう中で、今、佐賀県内でそういうふうな取り組みをされているところがあるのかどうか、その辺についてお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

県内で見ますと、県営住宅、それから佐賀市の全住宅が指定管理者です。それから、唐津市の一部住宅も指定管理者に委託されて運営されております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

答弁ばもうちきつと長う言うてくれんぎにゃ、次の質問ばするとば考えるとのなかなか難しかでしょう。なぜ私がこれを聞いたかということ、武雄市もそしたら指定管理者制度を導入する気はあるんですか。ありますか。ということは、指定管理者を導入したいという気持ちがあるのであれば、その指定管理者の導入についてどのようにお考えなのか、あり方としてを御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

市営住宅においても、多様化する住民ニーズにより効果的、効率的に対応するために民間の活力を利用するというのが経費の削減につながるということでございますので、私どもといたしましては指定管理者導入につきまして一定の動きはしております。きょうは緒方区長さんが見えですけども、佐賀県土木建築技術協会というのが、これは市町村が出資しております、この団体に実は御相談をしたことがございます。その話の中で、しかし、その団体が、公益法人が運営するということになると民業圧迫になるという御指摘もございまして、断念した経緯もございます。したがって、武雄市内の中でそういう一定の業者さん、事業者の方がおられましたら、できるだけ市内の方にしていただきたいという考え方を持っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

これはもし——もしというよりも、ぜひやっぱり導入をしていただきたい。そして、できるだけ地元じゃなくて、絶対に地元ということを前提のもとにこれはしていくべきじゃないかと思うんですね。それは何かといえば、例えば、ここから山内のほうに国道35号を上っていきよったら右側に看板の立っておるですね。何て書いてあるか、知っておるですか。見たことなかですか。山内の方、見たことないですかね。「まちの職人さん」とか書いてあるでしょう。書いてあったでしょう。（発言する者あり）例えば、ある武雄市の業者のどなたかが頭になって管理を引き受けましょうということでやって、そして町の大工さん、あるいは市内の業者さんにすべてをお願いする。例えば、山内町はこの業者さんをお願いしますよ、北方町はこの業者さんをお願いしますよ、武雄町はこの業者さんとの業者さんをお願いしますよと。そして、その人たちからまた行くということで、ぜひこれも、図書館問題とは完全に別でしょうけれども、やっぱり民でできるところは民をお願いをするというのが今の行政の基本じゃないかと思うわけですね。その辺について、市長、御答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そうです。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

先ほども、ちょっと部長さんをお願いですが、答弁の短過ぎてちょっと後の考えがまとまりませんけれども、次のですね、これに関連はしていないかもわかりませんが、次に、

今まで緊急雇用対策事業としてなされていた維持管理のことについてお尋ねと、今までの頑張っておられる皆様方に敬意を表したいということで思っております。

それは何かというと、緊急雇用対策事業というのは前年度で終わりましたよね。終わったんでしょう。（発言する者あり）らしいです。終わったということで念を押したら、こうしようんさっですね。そい、なぜかといえば、今、緊急雇用対策事業というのが終わった後、6名の方ですかね、が引き続き道路の維持管理、補修を含めてされております。これが、ちなみにその金額的なことを言うのはおかしいかもわかりませんが、どれくらい金がかかりよると聞いたら約600万円ばかりということでした。私は何が言いたいかというぎ、600万円の、要するにそれは人件費なんですけど、そいぎ、これは例えば、草払い、道路ののりの草払いがですね、始まった当初、そのときにはまだバブルが崩壊しておりませんでしたので、そういう中では平米、要するに1メートル真四角で大体100円ぐらいだったんですね、草を刈って、それを撤去するまで。その当時は燃やしてよかったけん、燃やすまでやったですかね、それが大体100円。それで、バブル崩壊後、ずっと人件費が下がって、今60円ぐらいかな、平米単価で。そいぎ、仮に平方メートル当たり60円にしたって、そいぎ600万円というたら幾らになるですかね。60円やけんが600万円、どのぐらいですか。計算した。60円、そいぎ10平米600円ですよ。100平米で6,000円、1,000平米で6万円。そいぎにゃ1万平米で60万円。10万平米ですよ。10万平米というぎ1メートルの10キロメートルでしょう。そいぎ、のりというのは、払うときには、今のここに従事をされている方たちが払いよんさるとは、そののり面、上にはのり面の5メートルぐらい払うてくれよんさるわけですよ。それで下も2メートルぐらい払うてくれよんさる。そいぎ、メートル当たり5メートルと2メートルやったら7平米あるわけでしょうが。そいぎ、金額的に600万円がと、6分の1ということは、この6人の方たちが幾らがと仕事ばしよんさるかということですよ。これは皆さん方、武雄町内ではわからないかもわかりませんが、我々周辺部に住む人間としては本当に助かっているんです。武雄市内の市道は600キロメートルぐらいあるんでしょう。600キロメートルの、仮に草払いを半分とする。半分としても300キロメートルですね。300キロメートルの上下のり面ば平米当たり7メートルとして幾らになるですか。ですね。これだけで億の単位をつくらいの仕事になるわけですね。それを皆さん方が一生懸命になって、本当に今から先は特に暑いさなか頑張っておられます。そういう中で、その骨折っておられます皆さん方に対して、執行部として、行政として、どういうふうな思いを持っておられるのか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

緊急雇用の御質問でございます。

私どもが現在採用しております者は4名でございます、これにつきましては緊急雇用じゃなくて市の単独費を使っております。別途緊急雇用でやっている事業もございます。ただし、建設課、都市計画課で行っているこの事業については単独で行っているということでございます。

これにつきましては、もう議員、今御質問されておりますが、非常に地域の方から好評を得ておりまして、それで皆さん方、4名の方、一生懸命になって作業をやって、汗だくになってやってもらっております。金額につきましても、先ほど議員言われましたように安価で、これを請負にかけますと相当なお金になりますが、人間を採用することによって住民サービスがより効果的にあらわれているということになろうかと思えます。したがって、今後につきましても引き続き確保していきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

きょうは、こうして見たところ、若木の区長さんたちもお見えのようです。若木も、東川登、西川登、武内同様に山が非常に多うございます。そして、がんとまで市道やというごた市道のいっぱいあります。そういう中で、武雄市単独で雇用されているということでございますけれども、この人たちを、金のなかけんふやせとは言いません。ふやしてくれと言いたいけれども、言いませんけれども、この人たちを含めた、絶対この人たちはずっと未来永劫雇用ばしてくんさいとは私は言いませんけれども、いろんな形でやっぱり今後も続けてしていただいて、武雄市の周辺部、市長がきのうも何か言いよったですね、やっぱり周辺部の栄えて初めて武雄市はようになると。そういう中で、やっぱり今から先もこれは続けていただきたいという気持ちがありましたものですから、質問をさせていただいております。

それでは、次に行きます。

まちづくり、旧武雄町内だけが町やなかけん、東川登もとりあえず東川登町という名前がついておりますし、西川登も西川登町という町名がついております。そういう中で、新幹線の事業に関して、今、宇土手の辺が、これは東川登のことですけれども、宇土手地区のことなんですけれども、宇土手地区が今、新幹線でかかる家の移転等々がなされておりますけれども、その辺で新幹線の宇土手地区の進捗状況をまずお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

新幹線の東川登町宇土手の状況ということでございます。

状況としましては、設計協議が宇土手地区につきましてはほぼ完了をいたしておりまして、特に天竜庵地区が主な対象地区となります。ここににつきましては設計協議が完了いたしました。

た。その後としまして、用地買収がなされておりますけれども、対象家屋につきましては7軒ありまして、そのうち6軒が用地買収を完了いたしております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

それと、東川登にジャンクションがありますね。西九州道に乗り入れするジャンクション、あれから武雄のほうの今の状況とといいますか、なぜかといいますと、きのうおととい、日曜日だったか、日曜日に不二コンの社長とちょっと会う機会がありまして、不二コンの社長とお話をしている中で、一遍話には来らしたばってん、それから先は何も来んされんばんと。今の新幹線のあの辺、要するにジャンクションから武雄の方面についての進捗状況のどがんっているのか、今後のやり方としてどがんしんさつとやろうかと。そのときに話をしたことは、実は今、もちろんそういうふうな中に入らばいかんやろうと。しかし、そういう中でも、今、残土処分地を探していましたと。そいぎ、残土処分地はどこになった、どがん話になったですかと向こうから言われて、いや、実は大山路の辺に残土処分地を確保したいということで、行政のほう、あるいは機構のほうが一生懸命努力をされておりますということと話をしましたけれども、その一生懸命になって努力した結果、成果はいかかなものかと質問をしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

設計協議の先ほど宇土手の状況を申し上げましたが、議員御指摘のとおり、武雄南ジャンクションから北側については関係区が袴野区と内田区がございます。ここの部分につきましては、非常に土壌が——土壌といいますか、土質が不安定ということで、当初トンネルで予定をされておりましたけれども、そこを切り土部分でやらにゃいかんとかいうふうなことで、その土質による設計変更等が生じております。そうした意味から、現在、測量をまた再度行いまして詳細設計を行っているということで、袴野地区の百木、亀屋、それから内田の大谷地区につきましては、まだ図面が正式に提示をされていない状況で設計協議に入っておりません。

ただ、残土処分地につきましては、新幹線工事、既に始まっておりますので、早急に確保する必要があるということで、昨年7月から内田区の大山路という班がありますけれども、その皆さんと協議をさせていただきました。その結果、地元の御了解をいただきまして、面積的には7.8ヘクタールほどございます。それで、地権者が17名ほどいらっしゃいますが、このほど5月に仮契約を完了させていただいたところでございます。これにつきましては、地権者の皆様方から大変な御理解と御協力をいただきました。で、ここの残土の処分場につ

きましては、ちょっと画面の切りかえをお願いします。これを、すみません……

○議長（杉原豊喜君）

理事、議案に出ていますので、そこら付近、慎重に答弁をお願いします。

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

実はきのう、近ごろほんにいろいろ話のあって、きのうおとといやったですかね、ある方から武雄と嬉野の間ぐらいに土地が欲しいと。それで、土地は幾らばかり欲しかとて聞いたら、当初5,000坪ばかり欲しかと。そいぎ、議案に出てるという話でありますけれども、そいぎ東川登に残土処分地としてひょっとするぎにやでくっけんが、それじゃどがんやと言うたぎ、いや、それは間に合はんろうということで、そいぎにや間に合はんらばどればするかという話の中で、ふと思いついたとが、昔、早田議員さんといって武雄市議会の議員さん、昔って今も生きとんさつとですけども、早田議員さんておんさる。その人方の近くの工業団地として造成をした場所が6,000坪ばかりのとのあるとですよ。そいぎ、そればふと思うてですね、何に使うとと聞いたら、流通センター的な機能を有したとをそこに持ってきたということだったものですから、急遽きのう、北川理事と、それから担当の松尾謙一君と相手方と現地に行きまして、これでどがんじゃろうかと。あと値段の折り合うぎにや何とかなるとやなかですかねという話の中で帰ってきたとですけども、例えば、今の残土処分地も含めて、そういうふうな今後の東川登——私が東川登んと言うぎおかしかてだれじゃい言いんさっけんが、あんまり言わんでですけども、新幹線が来ることによって東川登がどうこうなるというようなことはまず考えられんとですかねということでお尋ねをして、これもやっぱり事前審査にあったですかね。大丈夫ですか。それは答えにくかですかね。（発言する者あり）答えにくかて言いよんさるけん、よかです。

そしたら視点を變えてお尋ねをしますけれども、住民の方、要するに、例えば、残土処分するとき、ごみのしてみたい車が通ってみたいするという事で地元の方も心配をされておりますけれども、それについての、やっぱり万全な対策をとらんばいかんやろうと思っておりますけれども、これも事前審査ですか。大丈夫ですか。それは答えられますか。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

工事中の安全対策等につきましては、特に残土処分場を計画しております大山路地区についても、住民の皆様方から子どもたちも多いとか、あるいは高齢者も多いというふうなことで、つくる前提のお話し合いをするときに御指摘を受けております。それについては、機構と十分話をした上で安全対策を十分に講じていくということでお約束をいたしております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

それでは最後に、宮裾、今造成が完了し、企業を誘致するという段階の中で、一番初めに東京のモノレールである看板を見たときには、荷物置きの向こう側で、反対側に座っておったけんが、物すごくええと見えるのと言いながら何か行政視察のときに行った記憶があったんですね。そして、また行って今度見たときには、どうもこれは動かしたとやなかろうかなというごと、ちょっと字の小さかったかなと、こう思った感じのしたとですけれども、どっちみち、もうこの間の一般質問でもちょっと言いましたけれども、無料でやるけん来てくんさいと、そのかわりそれだけの投資額ばしてくんさいというような格好でもいいのかなと私は思ったんですよね。そういう中で、今の、そしたらばということで、この工業団地に来てみたいなどかいう問い合わせは今あっているんですかどうか、その辺についてお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

先ほど御指摘ありましたように、東京モノレールに武雄北方インターの工業団地のPRを載せております。その後、昨年10月からこれをやりまして、今、継続中ですが、これについてのお問い合わせは数件ありますが、まだ具体的な話にはつながっておりません。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

というのは、企業が来てもらわんことには武雄の人口もどうもならんと。それは皆さん方、もう私、本当に指摘を受けまして、おまえ、近ごろ腹の出ておると、腹の出てるけん歩けということで散歩をしようとす。時々です。そういう中で、皆さん、散歩しよるか皆さん方と話しばしよるかわからんくらいにとめられて言われることは、子どもたち、要するに若い人たちの流出の多かものど。恐らく東川登に限らず、西川登に限らず、北方に限らず、全市でそういうふうな話があることと思います。そういう中で、そいぎ何をするか。一番はやっぱり働く場所なんです。働く場所が欲しい。そいぎにや、おいも東川登に住んでよかばい。おいも父ちゃん、母ちゃんと住んでよかよ。しかし、今の現状としては働く場所がない。だから、出ていかざるを得ん。見たかっても、父ちゃん、母ちゃん見られんよということなんですよね。

市長、そういう中で、やっぱりトップセールスをする上で、あの工業団地を今後本当に早う——早く、佐賀弁でじゃなくて、ちょっと標準語で言えば、早くあれを解決——解決というよりも、来てもらえるような企業を見つけて、見つける努力をしてほしいと思いますけれ

ども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、そのとおりだと思います。ですが、もう議員も御案内のように、一昨日ですかね、NHKの「NHKスペシャル」でトヨタピラミッドショックありましたよね。あのときに、もう産業構造自体が変わっていて、雇用の吸収というのは国内ではもう無理だということ。そして、もう強烈に進む円高ですよ。で、こういった中でどういうふうになればいいのかということで、私もトヨタのトップの張会長とはたびたび会わせてもらっています。で、うちの職員も頑張っています。モノレールにいろいろ出したりとかと頑張っていますけれども、その一方で、私が考えなきゃいけないのは、そういう大規模な工業団地というのはもちろんやります。やりますが、一方で起業家を集めたいと思っているんですよ。例えば、議員御存じの屋良さんとか、杉山さんとか、きょうは来ていませんけれども、ああいう人たちというのは、業を起こして、かつ雇いをちゃんとやるんですよ。私もちょっと勘違いしていたのは、働く場をつくるということは、それは大事です。しかし、それはホップ、ステップ、ジャンプのステップの段階なんですね。だから、最初のホップというのは、そういう業を起こして、かつその業に付随する雇いを吸収するという人をちょっとやっぱり集めようと思って、今、画策しています。こういう起業家が集まるという環境をちょっと整えたいと思っていますので、ぜひ議員におかれましては、特にITの黒岩委員長にお願いをしたいんですけども、どういうふうになればそういう起業家があるのかと、お越しいただくかというのを、ぜひ山崎最高情報アドバイザーとお知恵をいただいた上で、私たちにまた教えていただきたいと思っています。

その中で、これは繰り返しになって恐縮なんですけれども、大中小、いろんなバージョンでやっていきます。大きいのは工業団地、若木も今度入りましたけれども、それが1つ。それと中の部分というのは、今、雇用してくださっているところあるじゃないですか。例えば、新武雄病院です。あれは今までは100人ちょっとで全部公務員なんですね。この前、鶴崎理事長とお会いしたときに今雇用何人ねと聞いたときに、400人をはるかに超しているんですよ。しかも、そこに関連の企業が集まりつつあるということなので、中の部分というのは、そういう雇いを吸収してくださるところに手厚い、何というんですかね、サポートをするということも大切だと思います。それで小の部分は、先ほど申し上げたように、今、起業家が武雄に移り住んできているんですよ。移り住んできていますので、今度、この人たちに雇いを吸収するような業を起こしていく。幸いにして、今度、CCCと武雄市で組んで図書館ができます。それは関連ビジネスが必ず周りに付随してきます。ですので、そういう意味で私は雇用が発生するようなものをしていく。

それと、ぜひお願いがあるのは、武雄において、これはユーストで、今、日本じゅうの人たちが見ていますけれども、武雄はこれからシリコンバレーになります。どういうことかという、一番起業しやすいという場所にしてみせます。これは、うちは強力な議会があります。そこに口うるさい人もいますけれども、そういうことで議会のサポートがあってそういうさまざまな支援策を講じてまいりますので、ぜひ着のみ着のまま起業家の人たちは来てほしいということを思っています。そういった中で、議員が御指摘がありましたように、さまざまな雇用の吸収、雇用の創出については市政の最重要事項として意を払ってまいります。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

これは私のたわ言と聞いていただいてもいいかもわかりませんが、きのう、そういうことで一つの流通センター的なものを持ってきたいということで話があって、そしてその後、北川理事が帰られた後、ちょっともういっちょ話のあるということでその話を聞いたんですけど、そのもう1つの話は何かと。武雄に施設をつくりたいと。施設をつくりたいから、2反、要するに600坪ぐらいの土地のなかろうかと。それで、早速、松尾初秋議員にお尋ねをして、いや、それは探すぎあるくさんと。ただ金額的に折り合うかどうかの話であって、それが来たりですね、もう1つはルートイン、ビジネスホテルのルートインですか、がですね、何で唐津のほうから話の来るのかなというような話で、唐津のある議員さんが、山口議員、ちょっとお尋ね事ばってんが、武雄にそういうふうな話のあるけんがどがんやろうかと。土地はあろうかとやったけん、土地はあるくさんという話をしたんですけども、そういうふうで市長のトップセールスによって、よしあしは別です。市長が名声、悪声、両方使うて武雄市を今物すごく有名に、日本じゅうで有名にしております。そういう中で、武雄市に来たいという企業も、そういうふうな大きい企業じゃないかもわかりませんが、そういうふうにしてトップセールスを中心に、我々議会も今後協力をしながら、やっぱり武雄市の発展を目指して我々も頑張っていきたいなと思っておりますので、執行部の方も心を引き締めて、そつのないように頑張ってくださいと思います。

これで終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で19番山口昌宏議員の質問を終了させていただきます。